

もの言う牧師のエッセー 第256話 リオ五輪④ 「自信がついた」

卓球男子団体で、エース水谷隼選手ら男子チームが銀メダル獲得の快挙を成し遂げた。団体戦が始まった2008年北京五輪から3連覇を達成した中国の壁は相当厚く、水谷選手は今大会に出場した中国代表3選手にこれまで計31戦全敗。まったく歯が立たなかったが、この大舞台で最高のプレーを見せた。

思えば卓球男子は、これまで福原愛選手や石川佳純選手ら世界で活躍する女子チームの陰に隠れてきた。さぞかし悔しい思いをしたに違いない。しかし今大会、中国が団体戦で初めて試合を落とすほどにまで追い込み、ついに歴史の扉をこじ開けた。

「結果を残して、自分に足りなかった自信が得られた。上のステージに上がることができた」と水谷選手が振り返れば、倉嶋洋介監督は「どうやれば中国を追い詰められるか、本気で考えるときがきた」と話し、チーム最年少の丹羽孝希選手は「もっと強くなって、次は中国に勝てるよう頑張りたい」と力を込める。「卓球界の夢を叶えることができた」と誇らしげに話す彼らを見て、神からの祝福を渴望した巡礼者たちの歌、

「彼らは涙の谷を過ぎるときも、そこを泉のわく所とします。（中略）彼らは、力から力へと進み、シオンにおいて、神の御前に現われます。」 詩篇84篇6-7節、

を想起した。一見みやびで美しい詩ではあるが、本節が収録された詩篇第三巻には、敵に囲まれ万策尽き、辛酸をなめ困難に喘ぎながら苦闘する古代イスラエルの人々が大勢描かれており、特に本節は、やはり敵に追われるなど苦労した信仰者ダビデが歌った同書42-43篇と対句であることでも知られる。シオンとはエルサレム神殿を指し、言わば大舞台である。人生には苦労が多く、人から見放されたように感じることも日常茶飯事だ。だが進まねばならない。結果を残し自信をつけ、少しずつステージを上って行く。神の力で本気で取り組み、もっと強くなり、やがて夢を達成するのが真の信仰者の道である。 2016-9-30

